事業区分　青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業

事業名　ボランティアスタートセミナー

［ 主　催 ］ 国立阿蘇青少年交流の家
［ 後　援 ］ 熊本県教育委員会
［ 期　日 ］ 令和７年６月 14 日（土）～６月 15 日（日）【１泊２日】
［活動場所］ 国立阿蘇青少年交流の家
［参 加 者］ 大学生 22 名　高校生 24 名　一般２人　計 48 人
［ 講　師 ］ 髙見　大介　氏（日本文理大学）
　　薄井　良文　氏（WakuWakuOFFICE あそ Be 隊 代表）
　　渡邊　裕介　氏（桜プランニング 代表）
［スタッフ］ 職員３名、法人ボランティア４名、実習生１名

1　趣　旨

（１）　青少年教育施設でのボランティア活動について理解を深め、法人ボランティアとして活動するための態度や技術を養う。
（２）　施設職員や先輩ボランティアとの関わりをとおして、青少年教育施設におけるボランティア活動の魅力を伝え、法人ボランティアの登録や実際の活動につなげる。
（３）　熊本県内の県立社会教育施設と連携し、各施設の特色ある事業を紹介することで、さまざまな教育事業への参加を促す。

2　目　標

（１）　ボランティアスタートセミナーの受講者全員がボランティア登録を行い、参加者の８割が本事業に「満足」と回答すること。
（２）　参加者の８割以上が「今後のボランティア活動に見通しをもつことができた」「今後の教育事業や教育支援に参加してみたい」と回答すること。

3　事業展開

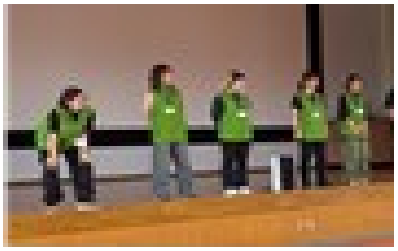
（１）研修プログラム

１日目　６月 14 日（土）		２日目　６月 15 日（日）	
10:00～10:10	開会式	7:15～ 7:30	朝のつどい
10:15～12:00	【演習】ボランティア活動の技術① 講師：薄井 良文 氏	7:30～ 8:30	朝食
		8:30～ 9:00	宿泊室の清掃・退所点検
12:00～13:00	昼食	9:00～12:00	【演習】ボランティア活動の技術③ 職員：木元　謙太郎
13:00～14:30	【講義】ボランティア活動の意義 講師：高見 大介 氏	12:00～13:00	昼食・休憩
14:30～14:45	休憩	13:00～14:00	【講義】県内施設の特色ある事業紹介
14:45～15:30	【講義】ボランティア活動の実際 法人ボランティアによる報告	14:00～15:00	【講義】ボランティア活動の技術④ 法人ボランティア登録制度
15:45～19:30	【講義・演習】ボランティア活動の技術② 講師：渡邊 裕介 氏	15:00～15:30	閉会式
		15:30～	解散
20:00～21:00	１日の振り返り		
21:00～22:00	入浴・就寝		

（２）活動の様子


【ボランティア活動の技術①】


【ボランティア活動の意義】


【ボランティア活動の実際】


【ボランティア活動の技術②】


【ボランティア活動の技術③】


【県内施設の事業説明】

4　評価、成果と課題

（1）評価

①　参加者の満足度（48 名全員回答）

質　問	項目	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体の満足度はどのくらいですか。	回答数（人）	43	5	0	0
	割合（%）	89.6	10.4	0	0
今後の教育事業や教育支援に参加してみたいですか。	回答数（人）	40（とても）	7（したい）	1（あまり）	0（したくない）
	割合（%）	83.3	14.6	2.1	0
ボランティア活動について見通しが持てましたか。	回答数（人）	32	15	1	0
	割合（%）	66.7	31.2	2.1	0

②　参加者の声

・　計画通りに進めることよりも、子どもたちを楽しませ、成長させることが重要だと感じた。
・　ボランティアに対する考えを改めることができ、活動に参加したいという気持ちが強まり、参加してよかったと思った。
・　知らないことが多いので、さらに学び、成長していきたいと思った。
・　自分の進路選択の一つとして考えることができ、今後に活かしたい。

（2）成果

〇広報の効果

広く広報を行ったことで、高校生から大学生まで幅広い参加者を募ることができた。参加者同士の交流を深め、ボランティア活動に関する見方や考え方を身につけ、満足度 80%以上を達成した。また、48 人中 47 人が法人ボランティア登録を行った。

〇活動の質向上

担当者間で参加者や法人ボランティアの目標とする姿を明確化し、各活動に取り組んだ結果、趣旨に沿った感想を多く得るとともに、ボランティア活動への更なる意欲を高めることができた。

〇施設連携の推進

県内社会教育施設と連携し、施設紹介やボランティア活動に関する説明の時間を設け、県内施設でのボランティア活動へつなぐ機会を提供することができた。

（3）課題

〇活動のねらいについて

知識を伝えるのか、参加者同士の交流を図るのか、目的に不明確な部分があった。運営側のねらいを講師と共有し、さらに綿密な打合せを徹底すること。

〇法人ボランティアの取組

機構や当施設が目指す姿を担当者とボランティアで共有し、ボランティアとしての自覚をさらに高められるようにすること。